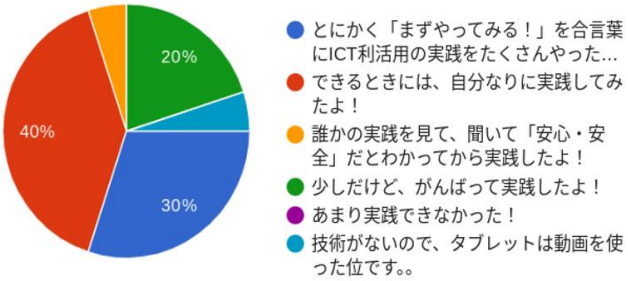
UPDATE

日々の教育を、一人一人がアップデートしていける研究に

研究だより No. ２３
２０２２．３．９
研究主任　大野作成

校内研究アンケート結果（20 人回答）と次年度の研究について

１　実践についてどんなマインドだったのか？



≪結果≫

9割以上の先生方が肯定回答！！

赤小の先生方はすごいです(^^♪

ICT支援員さんや区教委の方からもお褒めの言葉を頂きました！

≪自由記入欄≫

（１）来年度はもっと子供たちに寄り添った実践ができるように先陣切って企画、実践します！！！

（２）大野先生が「何かあったら学校全体で考えるので、安心してどんどんチャレンジしましょう！　そして、チャレンジする人を、みんなで応援しましょう」と５月に言ってくださったおかげで、校内の ICT 利活用がかなり進んだと思います。次年度もよろしくお願いします。

（３）とにかくなにもわからない状態からスタートした私なので、この一年間私なりに実りの多い研究でした。

（４）もっと色々な使い方をレクチャーしてほしい

（５）紙と ICT のいいところを考えながら行うことが少し大変であった。時代の変わり目はこうなりがちなので、仕方がないかなと思っています。

（６）子どもたちもクロームブックは新しいのでクロームブックばかりに目がいき、それになれると、ノート指導に戻ることはできず、既存のいいことが消えていく怖さもあった。

（７）「バランス」が必要かなと思います。パソコンしか使わない先生、ノートしか使わない先生ではなく、バランスよく使うことが次年度の担任の先生もやりやすいのではないかと思います。

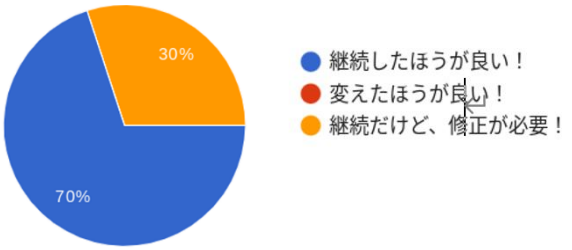
（８）ICT と記述の併用は、どちらも必要だと感じた。

結　論

☆ＩＣＴvs 紙ではない。「この場面では紙で、この場面ではＩＣＴだな。」という最適な選択を、先生や子供ができるようにしていく併用のスタンスを忘れずに研究していく。

☆定期的にレクチャー（授業で活用できるＩＣＴスキルアップミニ研修）の時間を確保していく。

２　研究主題を次年度も継続しますか？　変えますか？



≪結果≫

10割が継続！　修正も3割！

主題を継続しつつ、情報モラル指導、ルール設定、共通理解を図る視点を追加！

（１）主題自体は変えなくてもいいかもしれませんが、「あ、これは ICT 使ったら自分が楽そう！」「ICT だと子ども取り組みやすそうだなぁ」などの意識をもった共通理解の前提が必要だなと思いました。

（２）校務の ICT 化については具体的な目標があるといいかも

（３）文房具と同じと思って１年間指導していたが、文房具ではない相手を攻撃したり、嫌がらせで使ったりするなど行き過ぎた使い方をしている事に不安を感じます。実際にパソコンによるトラブルはあるかと思います。

（４）動画視聴（youtube）・チャットメール（児童同士のメール）画像の使い方（誹謗中傷）・パソコンの管理　・教師全員と保護者が、力を組まないと今後、大きな問題起きてからだと遅いので考えて行けたらと思います。いじめや自殺など心配になります。

（５）タブレットのルールについて。

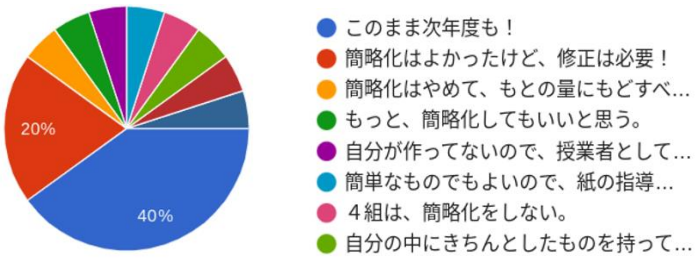
結　論

☆主題は継続する。　そこへ、①情報モラル指導　②ルール設定の保護者との共通理解　③教員間の指導の在り方の共通理解　を追加、強化していく。

3　次年度明らかにしたい・つくりたい・研究したいこと

順位	内容	記入人数
第１位	各学年の ICT における到達目標・系統表・段階表を作成したい。	５人
第２位	子供と先生の Chrome Book ガイドブックを作成したい。 授業実践するときに、役に立つ資料を作って活用したい。 各アプリの使い方があるとありがたいです。	４人
第３位	○各学年で行った ICT の実践例集 ○その分野に長けている人が集まり、ワークシートのテンプレートなど、普段の学習に使えそうな資料を作ってもらえるとありがたい。	２人
〃	各教科における ICT の利活用の在り方資料	２人
〃	研究授業以外で、皆さんの工夫した授業が見たいです。	２人
第４位	来年１年かけて、年間単元計画（道徳の後ろのやつ）を職員室に貼り、ICT 教材を作って頂いた先生が丸をつけていくとかそんな感じで共有していくなど。	１人
〃	新しいこともちろんやっていくべきだが、今年一年で積み上げたものを確立させていくことも必要だと思う。例えば、4 年が今年 ICT を使った単元を次年度の 4 年生にもやってもらって、別視点で意見をもらうことで、単発的なものではなく汎用的なものになるのではないか。	１人
〃	学年で同じ研究授業を「紙」と「クロームブック」で行って、比較しながら行う研究	１人
〃	働き方改革の観点で、ICT 化出来ることを追求、実践してみたい	１人
〃	教科を指定していただきたい。	１人
〃	専科の先生もたくさんの ICT 活用をされています。専科 ICT 活用研究授業も非常に興味あります。	１人

4　指導案の簡略化しましたが、次年度はどうしますか？



≪結果≫

簡略化に賛成が９割以上だが、修正は必要！

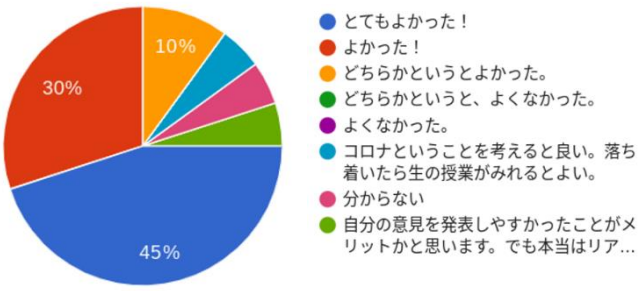
簡略化には賛成だが、①必要な情報がわかりずらい　②本時案の場所が少ない　など修正！

（1）簡易化は助かりました！しかし、レイアウトは変えるべきかと。単元のまとまりをもっと把握できるようにしたい！
（2）作る側と見る側どちらも経験して、確かに作業量は減ったが、注目したい、させたいところを示しづらいと感じた。
（3）単元目標の欄、その授業で何を育てたいかという教員の考え
（4）４組の場合は、複数担任、講師で授業をするため、研究授業にはそれなりの指導案が必要なことが今回よくわかったので、全体の流れに沿わなくても、４組は指導案は検討して作りたいと私は思います。
（5）単元の目標がないこと。→必ず書くこと。
評価基準　　→単元と本時どちらも必要
展開　　→どの先生も別に指導案を書いていたので、もとの形式に戻さないにしても、展開の欄は大きくするべき
（6）簡略化して元の指導案形式にしたいです。初任からそう学んできたので分かりやすいと思っています。
（7）授業を生で見られない場合、授業の流れなど、指導案が（特に本時案）詳しいと、より分かり易いと思いました。実際に講師の方を含め、みなさんに授業を動画で見ていただいた後、講師の方のお話や分科会の方からの質問を受ける中で、授業での細かい支援の理由やこだわりなどがお伝えしきれないところもあったかなと思いました。（指導案が細かくなったところで伝わるのかはちょっとわかりませんが。）ただ、やはり働き方改革の意味で、簡略化は非常にありがたいですし、このまま続けていくのでいいと思います。協議会の時に、分科会や授業者から詳しく（簡略化されたところを補足して）説明していただけると、より分かりやすいかなと思いました。

結　論

☆簡易化をした上で、「もとの指導案（一般的な）」の書式に戻す。
☆単元の目標を示す。
☆本時案を詳細に書けるようにする。

5　動画視聴後の協議会という在り方について、どうだったか？



≪結果≫

肯定意見が10割！　でも条件つき。

講師にとっても、校内の先生にとってもメリットはあったが、「実際に授業を観られるのなら観たい」という意見が多かったです！

（1）協議会としては良い。議論が進む。反面、やはり生で見たい。時間の取り方が難しいとは思うけど。

（2）動画の便利さには目から鱗でしたし、編集された先生には感謝の気持ちでいっぱいです。ただ、私は生で見るのが、その場の空気を感じられて好きかなと思いました。

結　論

☆事前や本時などで授業公開を２～３枠ほど設定し、その内の １ 枠以上リアルで観るようにする。協議会は後日に設定する。授業動画も全て保存しておく。

【メリット】講師の先生がじっくりと資料準備ができて充実する。

協議会の時間を実りある内容にするための検討時間ができる。

6　自由意見　　※今回載らなかった３つのアンケートについては新年度で活用いたします。

☆今年度の研究でかなりアップデートされたと思います。☆ゲストティチャーを来年度も楽しみにしています。

☆協議会がよりよくなり、ひとりひとりの授業もよりよくなっていきました。講師の方が毎回素晴らしい方で来年度もとても楽しみです。そのための大野先生をはじめ、研究推進のみなさんの努力に感謝しています。

☆他の先生方の実践を研究だよりで知ることができたり、素敵な講師の先生のお話を聞けたりと沢山のことを学ぶことができました。ありがとうございます！

☆自己申告の授業観察の際に各先生方に ICT を使っていただいて何かしらの実践をしていただくのはどうでしょう？

☆全体として ICT を使う機会が増えれば増えるほどメリットデメリットがより具体的に浮き彫りになると考えます。

☆こんなにみんながやってみようとする学校はすごいと思います。ぜひ来年もそうなってほしいです。

☆今年のように、素敵な講師の方々をお願いして、実りある学びをしたいです。

☆「この単元で、こんな使い方をしたよ！」のような、道徳の引き出しみたいなものを作り、共有したり、より良いものに改良したりできると嬉しい。私の場合、皆さんから学ぶばかりで差し出すものはありませんが。

☆今回かなり改革された研究で、研究主任すごい！と思いました。働き方改革も素晴らしかったです。

☆研究主任として、いろいろなご提案等ありがとうございました。職員室の研究掲示板とてもいいと思います。

☆常に意識しながら授業に取り組むことができたのが何より自分の成果と感じています。これも研究主任の提案のおかげです。来年度もよろしくおねがいします。

☆ICT 力のある方ばかりに比重がいってしまいご苦労かと思います。ICT の使いやすい教科や分野があると思うので、皆さんで手分けして研究してもいいかと。

☆ICT とは、全然関係ないですが、カリキュラムマネジメントの視点での教材研究の視点も、先生方にもってもらえればとは思っています。難しい話ではなく、例えば、算数の「平均」の学習の時に、理科の「ふりこ」の学習を並行させると、算数の学びを理科の実験に生かすという流れができる。教科横断的に先生方が教材研究を捉えると、子どもたちの学びが変わると思っています。知っている先生、実践をしている先生もいますが、そのような観点や考えがない先生もいるように感じます。学年研修会では、忙しくてなかなか行事についてのみの話で終わるかもですが、本当は教材研究の話をして、学年で共有してほしいと思っています。あまりきどらず、日常の会話から、より良い授業を作れるように、会議の時間を減らし、先生方の放課後のゆとりを作っていきたいと思います。

赤羽小Ｒ３年度研究構想図

≪学校教育目標≫
◎明るい子（あ）◎はたらく子　（ば）◎考える子（か）◎ねばり強い子

ICT を利活用し、主体的に学ぶ児童の育成
― よりよい学びを創る、３者（児童・保護者・教員）の利活用を探る ―

主体的に学ぶための文房具としての ICT 利活用

- 学んだことをまとめ資料を **残す**（ログ）
- リアルタイムで友達や先生と **共創**
- 自分に合った学び方を選び **最適化**
- どこでも、だれとでも **繋がる**
- 様々な方法で様々な人に **表現**
- いつでも、どこでも **情報収集**

教員の利活用
①教え方改革
②学び方改革
③働き方改革
3改革

共有・共育

保護者の利活用
①学校理解
②学習状況理解
③機能理解
3理解

Ｒ４年度　校内研究

《研究授業》

研究授業４本

- 教科指定は無し
- リアル参観⇒後日協議会
- 講師は毎回最適な方を招く
- 指導案は一般的な書式で簡易化

《作成資料》

○各学年の ICT 到達目標

○Chrome Book ガイドブック

など